

札幌孝仁会記念

## 人工関節センター！股関節疾患センターを開設

## 低侵襲治療で患者負担減

西区の札幌孝仁会記念病院（齋藤孝次理事長、入江伸介院長・276床）は、人工関節センター・股関節疾患センターを開設した。札幌大などで、股関節疾患の治療を手がけてきた名越智副院長が両センター長に就任。長年の研究による技術と知識を生かし、さまざまな疾患に対応していく。

名越センター長は、札幌器治療開発講座」で、医大卒業後、米国シアトルにあるワシントン大に留学、滝川市立病院勤務ののち、札幌大勤務時に寄附講座「生体工学・運

術、寛骨臼回転骨切り術

などの治療を行ってきたほか、股関節における人工関節、術式の開発に携わり、4月から現職に就任した。

同センターでは医師、急性期看護師、薬剤師、リハビリスタッフとともに、チーム医療で患者に

対応する。「変形性股関節症は人工関節置換術を選択することが多い。筋肉を切る必要はない。術後、治るまで時間がかかり、骨頭が外れるケースもあった。我々は、前側に、チーム医療で患者に

術後、治るまで時間がかかり、骨頭が外れるケースもあった。我々は、前側に、チーム医療で患者に

また、同センターでは3Dプリンタを活用し、術前に患者の骨格に適合するかどうかシミュレーションも実施している。3Dプリンタは患者のCTデータをSTLデータに変換し、コンピュータ上で骨格モデルを再現し立体モデルを作製する方法。患者の病態を把握できるほか、必要に応じて説明にも利用する。

現在、人工関節置換術の全国件数は、股関節年間7万件、膝関節10万件とともに年々5%ずつ増加しており、同センターの手術は2〜3カ月待ちという。

同センターは治療だけではなく、世界の最新情報を収集し、デバイスの開発、臨床研究を進めていくほか、教育も担い、「全国から手術見学なども積極的に受け入れていく。若手育成のため、最新技術を伝えていきたい」と話す。

Hospital  
&  
Clinic

人工股関節再置換術も対応